

令和3年度(第27期)にいがた市民大学特別講座プログラム(案)

講座名「にいがた文化の音霊(おとだま)」

1 趣旨

新型コロナウイルスにより、文化活動も制限を余儀なくされた。文化は人々の暮らしに潤いを与えるとともに、まちの魅力を発信する力にもなる。コロナ禍にあっても、新潟への愛着や誇りを持ちながら、自ら築き、表現してきた文化・芸術に風を吹き込み続ける人たちの想いを聴き、文化から見えるにいがたの未来を考える。

2 曜日・時間

平日 (1回) 午前・午後 6時30分～ 8時30分
土曜日(2回) 午前・午後 2時～ 4時

3 プログラム・指導講師

回	開催日	テーマ	内容	講師
1	2/2(水)	劇場専属舞踊団・Noism Company Niigata の挑戦	りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館を拠点に活動する日本で唯一の公共劇場専属舞踊団・Noism。 2004年に設立以来、新潟から世界へ向けてグローバルに活動を展開しています。設立から18年を振り返り、そしてこれからについて考えます。	(話し手)りゅーとぴあ舞踊部門芸術監督、Noism 芸術監督、演出振付家、舞踊家 金森 穰 (聞き手) 舞踊家・井関佐和子を応援する会 さわさわ会役員、「月刊ウインド」編集部、安吾の会事務局長 久志田 渉
2	2/12(土)	文化による感動が、未来をつくる	「感動ある世の中をつくる」という志を掲げ、2002年に若手有志で立ち上げた「にいがた総おどり祭」、文化継承への新たなアプローチである伝統文化の祭典「ART MIX JAPAN」。20年以上にわたる活動をもとに、文化の力や持続可能性を紐解きます。	「にいがた総おどり」副会長 Art mix Japan 総合プロデューサー 能登 剛史
3	3/5(土)	市民映画館の灯～36年(50-14)を紡いで	新潟の地に映画の『窓』と新しい『風』を起こそうと、1985年12月7日に「新潟・市民映画館シネ・ウインド」が開館した。 映画館を市民の手で運営するあの日から36年が経過し、映画を観るカタチも変わってきている。いつの時代でもまちや人の心に風や闇、光が宿る中、新潟に灯る市民映画館が紡いできたものは何か。36年の記憶(轍)と明日への光を語る。	新潟・市民映画館シネ・ウインド 代表 齋藤 正行

令和3年度(第27期)にいがた市民大学特別講座プログラム(案)

講座名「新潟駅と鉄道～その歴史と未来～」

1 趣旨

新潟駅周辺整備事業が進む中、万代口駅舎がその役目を終えました。交通の要であり、新潟市民にとって様々な思い出が交錯する大切な場所である「新潟駅」。ターミナル駅としての役割や特徴、発着する旅客列車が時代と共にどう変化していったのかを学び、「駅」と「鉄道」の未来について考えます。

2 曜日・時間

土曜日 午前・午後 10時～12時

3 プログラム・指導講師

回	開催日	テーマ	内容	講師
1	2/26(土)	三代目新潟駅の役割と特徴	令和2年に役目を終えた万代口駅舎について、ターミナル駅として担ってきた役割や仕組み、特徴が時代と共にどう変化していったのかを振り返り、駅とは何かを学びます。	新津鉄道資料館 館長 高山 栄一 学芸員 岩野 邦康
2	3/12(土)	新潟駅を彩った旅客列車たち	昭和30年代から現在まで新潟駅を発着した特急・急行・準急・普通列車について、鉄道愛好家ならではの視点から、時代背景やエピソード、懐かしい映像を交えて語ります。	鉄道友の会 新潟支部長 中村 稔
3	3/26(土)	新しい新潟駅と鉄道の未来	新潟駅はどう生まれ変わるのか。現代に求められるターミナル駅の役割や特徴、利便性やエキナカでの楽しみなど、新駅舎への展望や期待と共に、抱える課題にも触れ、新潟の鉄道の未来について考えます。	JR 東日本新潟支社 新潟駅開発まちづくり推進室長 櫻井 昭夫 新潟市都市政策部 新潟駅周辺整備事務所 主幹 本間 均